

共生力

NO. 15

2012. 3. 14

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel: 03-3222-4190 Fax: 03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9

第2太陽ビル 301

発行人: 黒田文男

日中国交回復 40 周年記念

第16次訪中団を歓迎します!



黒田代表理事と唐聞生中国宋慶齡基金会副主席

中国宋慶齡基金会大震災見舞い団

子どもら 20 名が来日



宋慶齡基金会ホームページより

大切な日本の友だちへ (一部抄)

五色に輝く花々も、ロマンティックな詩歌も、貴重な贈り物もありません。特別に驚かせたり、喜ばせたりもできないけれど、日本の友だちへのささやかな、心からの気持ちを言葉にして贈ります。どうぞ体を大切にしてください。願いがかないますように。何よりもあなたが毎日をお心やすらかに過ごせますように。

2012年2月7日から13日まで、中国宋慶齡基金会大震災見舞い団(子どもを含む20名)は、宮城県石巻市、仙台市、千葉県旭市を被災者支援のために訪れ、子どもたちと音楽、芸術交流を行いました。今回の訪問団は、3月末に中国宋慶齡基金会が被災地から100名の子どもを中国に招待するプログラムに基づき、そのための先遣隊として来日したものです。一行は、石巻市立雄勝中学校、仙台市立蒲町小学校、千葉県旭市を訪問し、民族舞踊、書道、武道、合唱、合奏などで被災地の子どもたちと交流しました。被災地の子どもたちも復興和太鼓や合唱でこれに答え、お互いの友情を深めました。

2月12日、代表団は協会と懇談しました。団長の唐聞生副主席は、被災地を訪れた感想として、人間と人間の交流が何よりも大切であると改めて実感したこと、日中交流をもっと深めなければならない、と述べました。

また、2007年から協会と宋慶齡基金会が共同で実施している音楽教師養成支援、音楽教師の交流などのプロジェクトは、地域の教育のレベルを上げるのに大きく寄与しており、中国でも高く評価されている意義のある事業です。みなさんが来られるたびに内容が充実してきています。続けることに大きな意義があります、と述べました。黒田代表理事の要請した、日中国交回復40周年記念第16次訪中団の受入れを快諾されました。唐聞生女史は、毛沢東・ニクソン会談の通訳としても日本でも広く知られています。

宋慶齡基金会からは、宋健国際部副部長、劉穎国際部副処長が、協会からは黒田文男代表理事、山中正和・吉田一徳業務執行理事、初岡昌一郎理事、山中小白評議員(通訳担当)が同席しました。

制度検討委員会開催

1月25日、代表理事の諮問機関である、第7回公益財団法人制度改革・役員選考委員会(前嶋座長)が開催されました。公益法人移行後の協会の事業、予算等について幅広くご意見をいただきました。

第16次訪中団、第6期安東自由大学派遣

…音楽教員派遣・ホームステイ受入れも

3月8日、第7回理事会、第3回評議員会が開催され、2012年度事業計画、収支予算が確定しました。教育交流事業計画の主なものは次の通りです。

- ①派遣事業として、日中国交回復40周年を記念した第16次訪中団(20名)派遣(今秋)、第6期安東自由大学(9月3-5日)派遣を行う。
- ②受入事業として、2013年度以降の訪日団招へいの準備を進める。
- ③教育交流・支援事業として、易県小中学校に電子キーボードを中心とした教育支援を行う。また、第4回易県音楽教師研修会(易県主催)の実施を助成し、音楽教員を含む参加者を拡大する。
- ④教育交流・研究助成などの事業は、イ)日本語作文コンクールなどの支援、ロ)田中一郎記念奨学金(2013年実施予定)の準備、ハ)中国人留学生のホームステイ受入れを行うことなどです。

なお黒田代表理事から、この間、協会の教育交流事業に尽力されている周牧之東京経済大学教授に対し、交換教員(対外貿易大学)として2012年4月から1年間、北京に滞在する間、協会「名誉北京駐在代表」として、協会の活動を支援いただきたいとの要請があり、周教授はこれを快諾されました。周教授は昨年、協会20周年記念シンポジウムにおいて、パネラーとして出席いただきました。

また、次回評議員会開催に先立ち、6月14日午後2時より、日本教育会館において、中国大使館公使参事官白剛教授の講演が予定されています。演題は「最近の日中交流で思うこと」です。



神奈川県平塚市立大原小学校で訪日団の音楽研修の様子

2011.10.19

♪♪被災地学校楽器修理に♪♪

♪「こども音楽再生基金」を通して100万円 ♪

3.11 東日本大震災で被災した学校の復興と音楽授業に役立つ願いを込めて、協会は「こども音楽再生基金」を通じ、100万円を支援しました。

「こども音楽再生基金」は、東日本大震災被災地の幼小中高校に対し、楽器関連の復興支援を行うため、学校備品の修繕、修理の支援、被災地での音楽活動支援により、子どもたちに音楽と楽器の力で、笑顔を届けることを目的としています。

ミュージシャンの坂本龍一氏、楽器製造会社が呼びかけ人となり、賛同人には、全国の学校やPTA、音楽部、音楽サークル、公益法人など多数が参加しています。

既に1822校にアンケートが配られ、回収率97%を数える中で、希望する200校以上において、順次点検修理がはじめられています。修理楽器は下記の通りです。

電子オルガン、オルガン、電子キーボード、打楽器、管楽器、アコーディオン、和楽器、弦楽器など。

基金は1月31日現在5649万円超が集まり、目標の3億円達成に向けて各界、各団体、個人から支援が続いています。

協会は、今年度予算から、中国宋慶齡基金会の了解を得て、易県への教育交流・支援の一部、100万円を大震災復興支援に振り向けるものです。このプロジェクトを通じて、多くの被災地の子どもに笑顔が増え、音楽を通じて共に生きる力が育つことを願っています。

「こども音楽再生基金」のホームページは;

<http://www.schoolmusicrevival.org/>

「事業計画懇談会」開かれる

2月14日、13都県の教職員代表(会員団体)が集まり、協会の次年度の事業計画について、貴重なご意見をいただきました。

懇談会に先立ち、学習会がもたれました。テーマは、「グローバル化した世界の中での小日本主義」(講師:初岡昌一郎姫路獨協大学名誉教授・協会理事)です。

初岡氏は「すべての歴史は現代史である」(E・H・カー)という視点から、現代のグローバリゼーションを白か黒かで見るのではなく、望ましいグローバリゼーションとは何かを見極める必要があると述べました。近年アフリカの成長が著しいが、これは先進国の援助が減ったことと関係がある。援助中心の国づくりでは、利権争いが目立ち、自立した産業育成がおろそかになる。また、この30年間世界の経済は成長しているが、国内格差は3倍に拡大している。軍事費は一向に減らず、食料の供給は人口の増大に追いついていない。このように国際問題が、国内問題となっている。生産さえ上げれば、経済が発展するというGNP軸の考えを見直し、人間開発指標に基づく、ワールドライフバランスを大切にしたい、と述べました。最後に、既得権益の中には、汗を流してかちとって来たものもある。また、ファシズムは、国家にとって邪魔とみなすものすべてを否定する、と講演を締めくくりました。

引き続き、事業計画懇談会が開催され、黒田代表理事は挨拶の中で、「現代の混沌とした時代にあっては、教師を始め、この時代に前向きに生きるすべての人々は、歴史や世界的視野といった『教養』を再点検し、身につけていくことが必要ではないか。そうした機会に、協会を活用して欲しい。」と述べました。懇談会では、来年度以降の中国宋慶齡基金会からの訪日団の受入れ、事業のあり方・会費分担などについての意見が出され、今後の協会の発展を期待して終了しました。